

討論メモ

「ロシアのウクライナ侵略の歴史的背景」

令和 4年6月14日

1. 6月は、下山健夫さんに表題について下記の項目にわたって説明いただきました。

- ①. ウクライナの略歴史
 - (ア) 略歴史
 - (イ) 2014のクリミア併合以降歴史
 - (ウ) クリミア併合
 - (エ) ミンスク合意
 - (オ) ウクライナの核廃絶
- ②. ウクライナの宗教
- ③. ロシア侵略戦争の国際法上の評価
- ④. 他国への影響
 - (ア) 両国と穀物への影響
 - (イ) 欧州のエネルギーへの影響

両国の文化、歴史、宗教などあらゆる分野にわたる密接かつ複雑な関係をご説明いただき、また、ロシアと独仏など欧州各国との関係も併せてご説明いただいた。

2. 引き続き出席者8名による自由な討論に入り、下記のような意見が出されました。

- ・ロシアとウクライナとの線引きは難しい。移住や混血など密接につながり、切り離せない。

- ・両国とも小麦、大麦、トウモロコシの生産が世界でも上位を占めており、穀物市場への影響が大きい。

- ・欧州の各国は天然ガス・石油でロシアに大きく依存しており、簡単には禁輸できない。

- ・この戦闘で各国とも防衛費を倍増させる計画だ。武器メジャーの思う壺だ。

- ・日本も防衛費を2%に引き上げると言い出しているが、中身が問題だ。米国から輸入するだけでは、真の防衛強化につながらない。

- ・侵略には国連は無力であることが改めてはっきりした。

- ・欧米も日本もウクライナへの武器支援を民衆が喝采してきたが、費用は民衆の税負担だ

- ・戦争の現象を追うだけでなく、その背景を探るのは大事だ。

- ・どうやったら戦闘を止められるのか、それを自分の問題として考えるのが大事だ。ウクライナはしきりに武器をよこせと要求するがそれでは戦闘は終わらない。

・両国首脳は戦争を避けるために、あるいは、停戦のために話し合ったのだろうか。

・善意の集まりとは言えない国際情勢の中で、首脳同士の実のある話し合いは簡単ではない。

・“ブチャの虐殺”などは明らかな停戦つぶしの捏造ニュースだった。

・ロシアはキエフは三日で落とせると読んでいたようだ。プーチンは甘い誤った見通しに乗せられたのではないか。

・最近、プーチン失脚のニュースが多くなっている。

・しかし、ロシア正教の宗教家もプーチンの行動を支持しているが、ロシアのまとまりはどこからきているのか。

・ウクライナはロシアに使われてきた歴史がある。ロシア帝国の時代には、ロシア、ウクライナのユダヤ人が虐待された歴史もある。

・ゼレンスキーはユダヤ人、バイデン政権の外交を牛耳っているブリンケン国務長官、ヌーランド国務次官ともユダヤ人で、この戦闘には東欧系ユダヤ人が多くかかわって、問題を複雑にしている。

・ウクライナはキエフを守り切った。準備と戦意さえあれば、防衛は可能だ。

- ・ウクライナはよく戦っているし、立派だ。

- ・自衛隊 OB の戦況分析によると、激戦地だったポパスナが陥落し、ウクライナはほぼ戦闘能力を失ったので、6 月中ぐらいに停戦が見込まれるとのこと。

- ・英米のメディアもウクライナに和平を呼び掛ける論調に代わってきている。

- ・停戦の条件はどうなるのか。

- ・ロシアはウクライナの EU 加盟を認めるとの情報がある。ウクライナは NATO 加盟せず、中立国となり、東部 2 州とクリミア半島はロシア支配を認めることになるのか。

- ・停戦には戦力均衡が鍵となる。

- ・NATO もロシアも古い弾薬を打ち尽くした。在庫を一掃して、そろそろ停戦か。

- ・停戦の仲裁役は、フランス、ドイツあたりか。トルコも地政学上重要で、影響力大きい。

- ・ボスポラス海峡を持つトルコの位置は重要だ。

- ・トルコは NATO に引き込まれたが、宗教・文化の違いもあって EU には入れてもらえない。欧州のご都合主義が見える。

- ・ウクライナがEUに加盟するとなると、内部の経済格差が拡大する。
- ・戦闘終了後は、EUは混乱するのではないか、統一通貨を守れるのか、注目したい。
- ・EUの通貨は一つ、財政は各国バラバラで調整が難しい。
- ・経済はドイツの独り勝ちといわれるが、ロシアからのエネルギー供給が滞ると苦境に陥る。
- ・米国の中央政府と州政府、EUと加盟各国との関係は似ているのか。
- ・日本は米国のシナリオ通りに動いているが、国益を考えた自主外交をしてほしい。

以上